|  |  |
| --- | --- |
| 分野名 | ビジネス情報分野 |
| 目　標 | １　企業活動におけるソフトウェアの活用について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。  ２　企業活動におけるソフトウェアの活用に関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。  ３　企業活動を改善する力の向上を目指して自ら学び、企業活動におけるソフトウェアの活用に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。 |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 時間数 | 学習活動 | 指導の留意点及び到達目標 |
| ２時間 | 【ＳＤＧｓとSociety5.0の理解】  ・グループワーク（１時間）  　グループごとに課題解決に取り組み、  ＳＤＧｓについて学ぶ。  ・解決策の発表（１時間）  　各課題の解決策を発表し、他グループからの質疑応答、教員からの講評などフィードバックを受ける。 | ・情報技術の進歩などについて幅広い知識を有しておくこと。  ・科学的な根拠に基づいて考えさせるため、資料の適切な活用を適宜指導すること。  ・ＳＤＧｓについての理解、Society5.0に関する知識を深めることができる。  ・社会問題に対して科学的な根拠に基づいて考えることができる。 |
| ２時間 | 【ネットワーク機器の種類と役割の理解】  ・ペアワーク（１時間）  　ネットワーク機器の特徴を確認し、情報資産を保護する方法を学ぶ。  　情報技術の進歩に伴う通信手段について調べる。  ・グループワーク（１時間）  前時に調べた進歩が社会に与える影響や変化について考える。 | ・情報資産を保護する方法については明確にイメージできないものもあるため、他者に説明できることに重点を置くこと。  ・既存のサービスやネット情報を写すだけにならないように留意すること（重点は創造させること）。  ・ネットワーク機器の特徴や情報資産を保護する方法について説明することができる。  ・情報技術の発展や可能性を創造し、進歩についても主体的に学び続ける態度を養う。 |
| ２時間 | 【ビジネスデータの集計や分析方法の理解】  ・表計算ソフトウェアの活用（１時間）  　ピボットテーブルの活用やグラフ作成など操作技術を学ぶ。  ・グループワーク（１時間）  　情報集計・分析を行い、課題発見とその解決方法について考える。 | ・科学的な根拠に基づいて思考させること。  ・データを活用して、主体的に課題の発見に努めさせること。  ・目的に応じたデータの活用技術を身に付けることができる。  ・多面的、多角的な視点からデータを活用することができる。 |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 時間数 | 学習活動 | 指導の留意点及び到達目標 |
| ２時間 | 【データベース型サイトのＳＥＯ】  ・グループワーク（１時間）  　グループで考えた商品ページとの違いを比較する。  ・グループワーク（１時間）  　検索エンジンの上位ランキングに表示されるような施策について思考を深める。 | ・保有している物品やサービスを具体的に説明できるような知識があるものでビジネスのジャンルと商品を決めさせる。  ・他の商品においても応用が利くような包括的な視点で考えさせる。  ・科学的な根拠に基づいて情報を管理・提供し、評価・改善ができる。  ・課題を発見し、解決へ向けて主体的かつ協働的に学び続けることができる。 |
| ２時間 | 【グループウェアの活用について】  ・調べ学習（１時間）  　グループウェア導入のメリット・デメリットについて調べる。また、グループウェアの比較と分析をする。  ・ペアワークと発表（１時間）  　導入の決め手を考え、活動内容について発表する。業務処理用ソフトウェアについても調べ、実務の仕事内容について考える。 | ・企業が開発しているグループウェアについて比較分析させる。  ・業務処理用ソフトウェアから仕事内容を考え、勤労観とともに自身の進路についても考えさせる。  ・グループウェアに関する知識について理解することができる。  ・業務処理について知り、仕事内容から組織の一員としての役割を考えることができる。 |
| ２時間 | 【日常生活における行動のアルゴリズム】  ・個別作業とペアワーク（１時間）  　日常生活の中から手頃な行動を選択し、アルゴリズムと流れ図を作成する。  ・改善内容の発表（１時間）  　ペアワークにおいて指摘された内容を含め、改善した点について発表する。 | ・ロボットが処理するためのアルゴリズムであることを留意させる。  ・相互評価させ、処理手順がよりよくなるように改善させる。  ・アルゴリズムの基礎や流れ図に関する知識と技術を身に付けることができる。  ・情報を処理する手順を思考し、システムの開発、評価・改善ができる。 |
| ４時間 | 【ビジネスプレゼンテーション】  ・プレゼンテーションの準備（３時間）  ・プレゼンテーションの実践（１時間） | ・ビジネスの場面を想定し、組織の一員としての役割を果たすために、自身が身に付けたことを意識させる。  ・論理的かつ簡潔に発表することができる。  ・発表会を通じて、新たな課題を発見し、それを次の学びに生かそうとしている。 |